

2021 夏のコレクション展「動物大集合！」歴史

床の間動物園Ⅱ

2021年5月29日(土)–8月29日(日)

豊橋市美術博物館2階第2展示室

東洋画の伝統的な画題のうち、花鳥画は文字通り花や鳥を描いたものですが、動物・昆虫・魚・果物・野菜などのあらゆる生物を対象としています。日本では、江戸時代中期に沈南蘋(しん・なんびん)がもたらした写実的な花鳥画が広まり、後世の画家にも影響を与えました。

花鳥画には「竹に虎」「葡萄に栗鼠」など、特定の植物と動物を組み合わせた定型的な画題が多く、それぞれ子孫繁栄・立身出世といった願いや意味が込められています。また、主人の威厳を高めるもの、見る者の心をやわらげるものなど、その空間に及ぼす効果も多様です。

動物たちの絵をたくさん飾れば、そこはまるで動物園。今回は第2期として、動物が描かれた掛軸・屏風・杉戸絵を紹介します。

第2展示室

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	数量	法量(cm)
1	虎図	太田山陰	江戸時代	絹本着色	1幅	97.0×37.8
2	雲龍図	鈴木拳山	明治44年(1911)	紙本墨画	六曲一隻	167.5×364.2
3	蝶辺睡猫図	大西椿年画 樋口逸斎賛	江戸時代	紙本墨画淡彩	1幅	103.3×28.5
4	睡猫図	鈴木拳山	明治時代	紙本着色	1幅	131.7×51.0
5	狸図	水野畊雨	明治～大正時代	紙本墨画	1幅	134.0×30.5
6	葡萄に栗鼠図	長尾華陽	明治16年(1883)	絹本着色	1幅	106.0×35.0
7	あけびに猿図	恩田石峰	江戸時代後期	紙本墨画	1幅	123.8×43.8
8	竹に猿図	明誉古礪	江戸時代中期	紙本墨画	1幅	35.8×51.5
9	菊に亀図	畑在周	明治時代	紙本墨画淡彩	扇面	24.0×37.0
10	大根に鼠図	水野畊雨	明治～大正時代	紙本墨画淡彩	扇面	27.0×44.0
11	寓絵堂日録	渡辺華山	文化14年(1817)	紙本墨画淡彩	1巻	30.2×1090.0
12	竹に虎図	原田圭岳	明治10年(1877)	板地着色	3枚	各175.0×91.0
※	猿図	原田圭岳	明治8年(1875)	板地着色	4枚	各175.0×91.0
※	鹿図	原田圭岳	明治10年(1877)	板地着色	4枚	各175.0×91.0

※はシンボルコーナーにて展示